

3Rエコポイントシステム促進のための
ガイドライン本編はこちら

<http://www.env.go.jp/recycle/circul/3r-ep/>



はじめよう！ 3R Reduce Reuse Recycle エコポイント システム



はじめに

近年、世界中で意識が高まっている「環境問題」。
自分にも何かできることがあるんじゃないか？
でも、何をしたらいいんだろう？
なかなか一歩を踏み出せずにいるなら、
これからのことをみんなで一緒に考えてみませんか。

市民
環境問題やエコのことが気になるけど、普段の生活の中で何をしたらいいのかな？

自治体の職員
ゴミ処理のコストダウンや効率化をしたい。ゴミを減らすことの重要性を住民の皆さんに伝えたい！

事業者
お客さんに注目されるようなプラスαの工夫ができないかな？ 商店街をにぎやかにしたい！

NPO法人などのメンバー
マイバッグの利用者があまり増えないな。地域の人達と一緒に解決できるよい方法は何か？

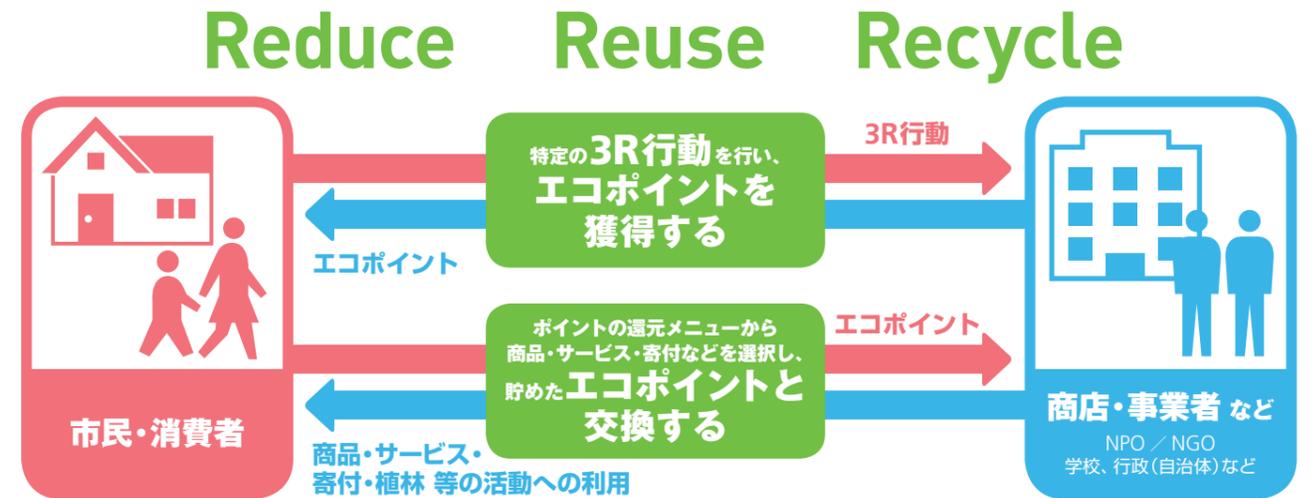
こんなことで困っていませんか？

そんな悩みを抱えているなら
“3Rエコポイントシステム”をはじめませんか？

“3Rエコポイントシステム” って何？

「3R」という言葉を聞いたことはありませんか？ これは、「Reduce (ゴミを減らす)」、「Reuse (繰り返し使う)」、「Recycle (資源を再利用する)」という3つの行動を示しています。「3R」は、天然資源の消費を抑え、環境への負担をできるだけ少なくする「循環型社会」を実現する、重要

なキーワードです。
この環境に配慮した3つの行動(以下「3R行動」)を、地域住民みんなで楽しみながら実行・促進するために、3Rに該当する行動にポイントを付け、獲得したポイントを商品やサービスなどと交換する制度が“3Rエコポイントシステム”です。



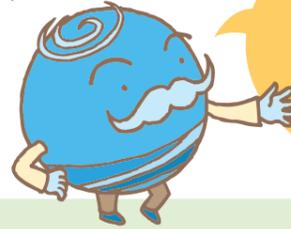
はじめてみると みんなが喜ぶこといっぱい！

- 環境に配慮した商品を買って、エコに貢献できる！さらに、ポイントまでもらえて、お得なサービスをゲット！
- エコポイントというプラスαの売りができ、お店の集客力&宣伝効果がUP!
- 消費者と事業者が共に協力できる活動だから、市民の交流が活発化する!
- ゴミ処理のコストダウンが期待できる!
- 無理せず、楽しく地球にやさしいことができる!
- 地域住民に、環境に対する意識を高めてもらえる!

3Rエコポイントに関するより詳しい情報は [こちら](http://www.env.go.jp/recycle/circul/3r-ep/)
3Rエコポイントシステム促進のためのガイドライン
<http://www.env.go.jp/recycle/circul/3r-ep/>

私たち、“3Rエコポイントシステム”を地域に取り入れてます！

すでに3Rエコポイントシステムを地域で導入し、活動している方々があります。どんな活動を行い、どんな喜びの声があがっているのか、実際に運営している方々に伺いました。



ほかにも多くの事例があるぞ。もっと知りたい方は、ガイドライン(p.2参照)の第5章を見てみよう！

「私たちも3Rエコポイントシステムを活用したい」と思った方は、次のページをチェック。システム導入の手順をご紹介します。

Case1 ぎふ・エコライフ推進プロジェクト

NPO

「エコライフを推進し環境行動を広げよう」をスローガンに掲げ、県内の7市12町・30団体で主催し、協力・共催・後援団体は合計112団体に上ります。環境行動を西濃・岐阜地域に広げ、地域住民・NPO・事業者・行政が協働し、レジ袋・紙袋・トレイなどの削減やマイ箸推進などの活動を行っています。この運動を通して、環境行動を実践できる地域住民の育成と、環境先進地の実現を目指しています。

植樹・植花・エコグッズ交換までの流れ

プロジェクト協力店舗にマイグッズを持参

右のステッカーのあるお店で、マイバッグ・マイ箸・マイパックを持参するとポイントを獲得できる



エコポイントを100ポイントためる

100ポイントたまったら、住所・名前・団体名などと植樹場所の希望を書いて事務局にカードを送る



エコライフ推進カード



各地域事務局で花の種、エコグッズなどと交換

植樹・植花イベント エコグッズ

- 植樹・植花場所で開催 (往復はがきで連絡)
- 天然石けん(5個)
- 箸袋(1個)
- 竹炭消臭剤(1個)
- ぞうきん、マジッククロス(1対)
- 生ゴミから作った土の素(1個)

自宅記念花

- 花の種10個

Point 何をするとポイントがもらえる？

マイバッグ・マイ箸の持参、量り売りによる購買、フェアトレード商品の購買、ドギーバッグの使用、環境行動への参加など(各1ポイント)。全国初の取組である揚げ物バイキング・マイパック持参は3ポイントが付く。専用のポイントカードに、各店舗でスタンプを押印する。

獲得したポイントは、植樹活動への参加(100ポイント)や、花の種やエコグッズと交換(100ポイント)することができる。

スタッフの声

やってよかった！

平成21年4月～平成22年2月までに1,193本(平成19年度からの合計で3,608本)の植樹を実施し、二酸化炭素を約36トン削減したと試算しています。

また、主催・共催・主管・協力・後援をあわせて112団体(企業)の協力、830店舗の賛同を得られ、地域ぐるみで環境問題に取り組む協力体制が出来上がったのも、大きな成果です。全国初の取組である「揚げ物バイキング・マイパック持参運動」をスタートできたのも、皆さんの協力あってのことですね。

今後の抱負

今後は、各行政との連携をさらに深め、植樹場所の確保や植樹費用、維持管理費用などの協働を進めていこうと考えています。また、小中学校や自治会、子ども会、PTA、老人クラブなど、より多くの団体・企業に働きかけをしていく予定です。改善点としては、協力店舗数の地域でのばらつきを解消することです。活動のさらなる拡大を目指していきます。



Case2 あだちエコネット事業

自治体

足立区民の環境に対する意識啓発と、ペットボトル回収に対する課題改善(ペットボトル回収量の増加、回収などにかかる費用の削減)を目指し、ペットボトル回収によるエコポイントシステムを導入・運用しています。平成22年10月より、独自の環境ICカードに加え、交通系ICカードも使用できる新システムへと切り替えを行っています。

Point 何をするとポイントがもらえる？

ペットボトル自動回収機にペットボトルを投入し、あだちエコネットポイントカード(環境ICカード)や交通系ICカードをタッチするとポイントが付く。(ペットボトル1本につき5ポイント)

獲得したポイントは、1,000ポイントを100円分の買い物券と交換できる。または、スーパーマーケットなど協力店舗のポイントと交換(1ポイント=0.1円相当)できる。

スタッフの声

やってよかった！

ペットボトル回収量は、事業をスタートした平成18年度から毎年増加傾向です。平成19年度は前年比13.7%増、平成20年度は同10.4%増、平成21年度は同1.5%増という具合に、着実に区民にエコ意識が根付いていっています。

今後の抱負

新ポイントシステムへの切り替えにより、経費を削減することができました。平成23年度は、ペットボトル回収量が多いスーパーに自動回収機を増設するほか、自動回収機による飲料缶モデル回収事業を実施します。また、回収拠点の拡大も検討していく予定です。



環境ICカードを利用したペットボトル新回収システム

ペットボトル回収の流れ

ペットボトルを回収機に持参

家庭から排出されたもののみ



住民による持ち込み

ペットボトル

カードの利用法

入手

カード配付場所は、店舗サービスカウンターもしくは区役所計画課にて



あだちエコネットポイントカード(環境ICカード)

- 登録
- 無料貸与

利用

ペットボトル投入時にカードをタッチ



自動回収機

自動回収機に投入

スーパー(46カ所)にてペットボトルを分別、破碎・チップ化し、1/8に減容して保管

回収実績(平成18～21年)

回収重量 1,122トン
回収本数 3,201万本

●登録 ●無料貸与

利用

ペットボトル1本につき、5ポイント加算される

(エコネットポイント)

+5p

ポイント還元

1,000ポイントたまったら、サービスに還元される

1,000p

回収ペットボトルは、企業が収集・再生

リサイクル方法…足立区と企業が協働

ボトル to ボトル



再生ペットボトル

100円分の買い物券

または、スーパーマーケットのポイントと交換

“3Rエコポイントシステム”を 導入するためには

3Rエコポイントシステムを導入するためには、
4つの重要な段階があります。
具体的にどのような準備や活動をすればよいかをご紹介します。

3R Eco Point System

introduction

事業計画の検討/ 組織・体制の構築

- 3Rエコポイントシステムの事業計画(目的・しくみ・収支計画など)の素案を作ります
- 地域の状況や利用者層の特性を考慮して、3Rエコポイントシステムを導入する目的や目的の達成度を測定するための指標・目標値を決めます
- 企画を行う組織(部署)・担当者・役割分担を決めます
- 取組に関わる組織には、企画から参加してもらえるように働きかけます
- 会議体・意思決定の方法・組織の運営ルールを決めます

3Rエコポイントシステムのしくみの検討

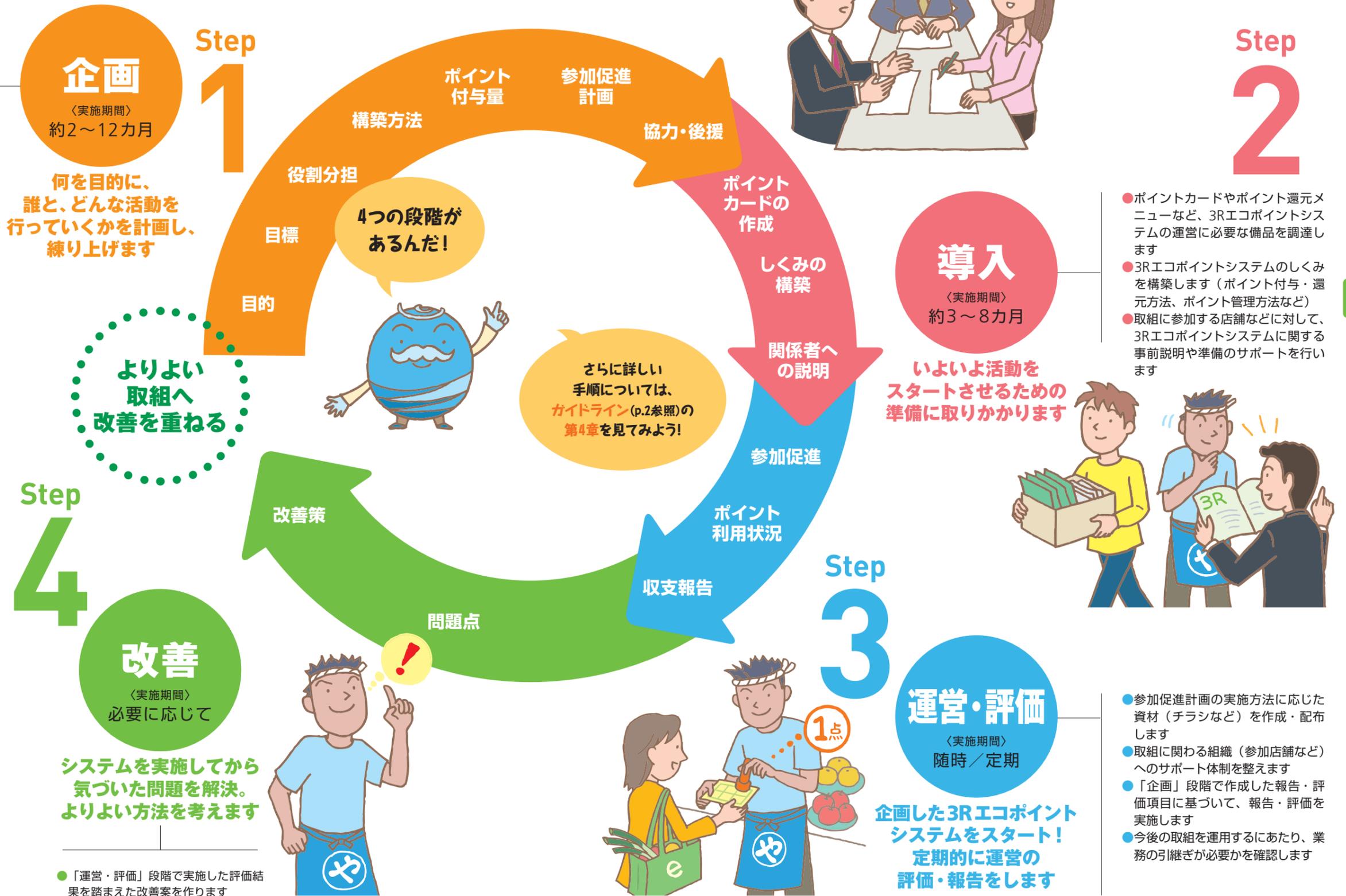
- 3Rエコポイントシステムの構築方法や、ポイント付与対象の3R行動の内容を決めます
- 予算・目的などを考えて、ポイント付与方法やポイント還元メニューの利用方法を決めます
- 利用者が、ポイントカードを取得する方法を決定します
- 貯まったポイントを確認する方法やポイント利用に関する情報の管理方法を決めます
- ポイントに関するお金の流れを決めます
- ポイント還元メニューの内容・調達方法・管理方法を決めます
- ポイント原資提供者にメリットがあるポイント還元メニューを用意します
- 3R行動別の付与ポイント量を決めます

収支計画

- 予算の調達方法の決定、予算の確保をします
- 費用の見積もりや支出計画を作ります
- ポイントの発行と利用のタイミングのずれを考慮します

導入・運用準備

- 報告・評価する項目を決めます
- 各項目の報告・評価方法を決めます
- 参加促進の実施計画(実施方法・スケジュールなど)を決めます
- 取組に賛同してくれる組織(商工会、商店街店舗、市民活動団体、行政など)に協力・後援などを依頼します
- 取組に関連する法令の確認を行います



- ポイントカードやポイント還元メニューなど、3Rエコポイントシステムの運営に必要な備品を調達します
- 3Rエコポイントシステムのしくみを構築します(ポイント付与・還元方法、ポイント管理方法など)
- 取組に参加する店舗などに対して、3Rエコポイントシステムに関する事前説明や準備のサポートを行います

- 参加促進計画の実施方法に応じた資材(チラシなど)を作成・配布します
- 取組に関わる組織(参加店舗など)へのサポート体制を整えます
- 「企画」段階で作成した報告・評価項目に基づいて、報告・評価を実施します
- 今後の取組を運用するにあたり、業務の引継ぎが必要かを確認します

- 「運営・評価」段階で実施した評価結果を踏まえた改善案を作ります

5

3Rエコポイントシステムの導入手順

6

3Rエコポイントシステムの導入手順

“3Rエコポイントシステム”を導入することで地球環境に与える負荷をこんなに減らせます

3R行動を行うと、どれくらい地球環境に与える負担を減らせるのかご説明しましょう。

3R Eco Point System

Good influence to the earth

3R行動がもたらす「環境負荷低減効果」とは

3R行動には、具体的に下記のような取組が挙げられます。

リデュース Reduce (ゴミを減らす)

レジ袋の辞退／量り売り商品・詰め替え用商品の購入／マイ箸・マイ容器の使用 など

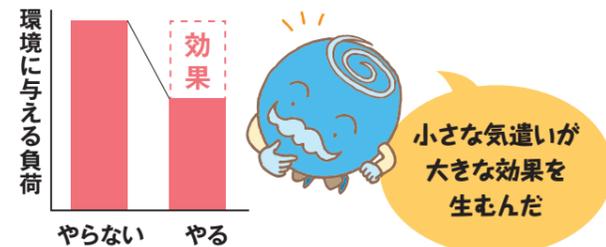
リユース Reuse (繰り返し使う)

古着・古本の購入／リターナブルびん入り商品の購入／衣料品の資源回収への協力 など

リサイクル Recycle (資源を再利用する)

空き缶・ペットボトルの分別排出／古紙の資源回収への協力／使用済み天ぷら油を回収施設へ持参 など

これらの行動を行うことで、「天然資源投入量の低減」「廃棄物・副産物の発生量の低減」「最終処分量の削減」「エネルギー消費量の低減」「温室効果ガス（CO₂排出量など）の削減」「有害廃棄物の低減」といった効果が期待できるのです。これらのことを『環境負荷低減効果』といいます。8～9ページで、環境負荷低減効果を評価した結果（数値）の一部を紹介しています。この評価結果を参考にして、エコポイントの点数を検討するなどシステム導入に役立ててください。



『環境負荷低減効果』活用方法の参考例

ポイント量を決める

それぞれの3R行動がもたらす『環境負荷低減効果』や、行動することの難易度を考慮して、どれくらいのエコポイントを付けるのか、判断する際に参考にします。

3Rエコポイントシステムを取り組んだことによる成果を評価する

自分たちが行った3R行動が、一体どれくらいの成果を挙げられたのかを知るために、『環境負荷低減効果』を参考にしてCO₂排出量などを試算します。

環境負荷低減効果の評価の考え方

環境負荷低減効果の評価方法の代表的なものとして、LCA (Life Cycle Assessment: ライフサイクル評価) があり、本ガイドラインではLCAに基づいた試算結果を掲載しています。LCAとは、製品の原料採取から製造、廃棄に至るまでのライフサイクル（原料採取→製造→流通→消費・使用→廃棄・リサイクル）全体に渡って発生

するさまざまな環境への負荷を、科学的、定量的、客観的に評価する手法です。

LCAによる評価結果は特定的前提条件を基に試算した一例であり、同一製品であったとしても、前提条件や評価範囲が異なる場合は評価結果が大きく変動することがあります。

3R行動による環境負荷低減効果〈例〉

①天然資源投入量低減効果

3R行動	環境負荷低減効果(原単位)		前提条件・試算方法
	単位回数/量	環境負荷低減効果	
ペットボトルの分別排出 (500mL 容器)	1本	水資源 0.166kg 化石資源 0.009kg	ペットボトルを分別排出しない場合にはリサイクルされないものと仮定し、ペットボトルを分別排出・リサイクルすることで削減される天然資源投入量（水資源・化石資源）より、ペットボトルを分別排出した場合の天然資源投入量低減効果を試算しています。 出典：平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書【資料編】平成17年 環境省 p.142
アルミ缶の分別排出 (350mL 容器)	1本	ボーキサイト 0.014kg 石灰石 0.001kg 原料塩 0.000kg	アルミ缶を分別排出しない場合にはリサイクルされないものと仮定し、アルミ缶を分別排出・リサイクルすることで削減される天然資源投入量（ボーキサイト、石灰石、原料塩）より、アルミ缶を分別排出した場合の天然資源投入量低減効果を試算しています。 出典：平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書【資料編】平成17年 環境省 p.158

②廃棄物発生量低減効果

量り売り商品の購入 (飲料水 2L)	1回	0.022kg	2Lのペットボトル入りの飲料水を購入せずに、持参した容器で量り売りの飲料水を2L購入した際の廃棄物発生量低減効果を、ペットボトルのライフサイクルにおける固形廃棄物発生量より試算しています。 出典：PETボトル等のリユースによる環境負荷分析効果について（詳細）平成21年 環境省 pp.21-22,32
リターナブルびん入り商品の購入 (焼酎・清酒 900mL)	1本	0.065kg	使い捨て用のワンウェイびん入り商品を購入した場合と、繰り返し使用するリターナブルびん入り商品を購入した場合の、各容器のライフサイクル全体での固形廃棄物発生量を「1回使用当たり」の値と比較し、廃棄物発生量低減効果を試算しています。使い捨てびん入りの飲料は遠方地域で生産され、全て廃棄処分されているものと仮定し、リターナブルびんは再使用を想定して近隣地域で生産され、平均使用回数を1.6回と仮定しています。 出典：PETボトル等のリユースによる環境負荷分析効果について（詳細）平成21年 環境省 pp.45,48
リユースカップの使用 (500mL)	1回	0.002kg	1回で使い捨てる紙コップを使用した場合と、20回再使用するリユースカップを使用した場合の、各容器のライフサイクル全体での固形廃棄物排出量を「1回使用当たり」の値と比較し、廃棄物発生量低減効果を試算しています。 出典：平成14年度リユースカップの実施利用に関する検討調査報告書 平成15年 環境省 p.20

各試算結果は、それぞれ異なる条件を仮定して評価・試算された結果です。参考情報のひとつとして見てみよう



ほかにもたくさんの評価結果があるぞ。ガイドライン(p.2参照)の第3章を見てみよう

7

3Rエコポイントシステム導入の利点

8

3Rエコポイントシステム導入の利点

③ 最終処分量削減効果

3R行動	環境負荷低減効果(原単位)		前提条件・試算方法
	単位 回数/量	環境負荷低減効果	
量り売り商品の購入 (飲料水 2L)	1回	0.001kg	2Lのペットボトル入りの飲料水を購入せずに、持参した容器で量り売りの飲料水を2L購入した際の最終処分量削減効果を、ペットボトルのライフサイクルにおける最終処分量より試算しています。 出典：PETボトル等のリユースによる環境負荷分析効果について(詳細) 平成21年 環境省 pp.21-22,32
リターナブルびん入り商品の購入 (焼酎・清酒 900mL)	1本	0.061kg	使い捨て用のワンウェイびん入り商品を購入した場合と、繰り返し使用するリターナブルびん入り商品を購入した場合の、各容器のライフサイクル全体で発生する最終処分量を「1回使用当たり」の値と比較し、最終処分量削減効果を試算しています。使い捨てびん入りの飲料は遠方地域で生産され、全て廃棄処分されているものと仮定し、リターナブルびんは再使用を想定して近隣地域で生産され、平均使用回数を1.6回と仮定しています。 出典：PETボトル等のリユースによる環境負荷分析効果について(詳細) 平成21年 環境省 pp.47-48

④ エネルギー消費量低減効果

リユースカップの使用 (500mL)	1回	0.499MJ	1回で使い捨てる紙コップを使用した場合と、20回再使用するリユースカップを使用した場合の、各容器のライフサイクル全体でのエネルギー消費量を「1回使用当たり」の値と比較し、エネルギー消費量低減効果を試算しています。 出典：平成14年度リユースカップの実施利用に関する検討調査報告書 平成15年 環境省 p.20
ペットボトルの分別排出 (500mL 容器)	1本	0.355MJ	ペットボトルを分別排出せずに廃棄した場合(分別・回収率を0%と仮定した場合)と分別排出・リサイクルした場合(分別・回収率を100%と仮定した場合)における、ライフサイクル全体でのエネルギー消費量の差より、ペットボトルを分別排出した場合のエネルギー消費量低減効果を試算しています。 出典：平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書【資料編】 平成17年 環境省 p.142

⑤ 温室効果ガス削減効果

レジ袋の辞退	1枚	0.001kg-CO ₂	レジ袋をもらわずに辞退した際の温室効果ガス削減効果を、レジ袋を製造する際に発生するCO ₂ 排出量より試算しています。 出典：早稲田大学永田勝也研究室によるLCA評価結果 平成21年 早稲田大学永田勝也研究室
リユースカップの使用 (500mL)	1回	0.099kg-CO ₂	1回で使い捨てる紙コップを使用した場合と、20回再使用するリユースカップを使用した場合の、各容器のライフサイクル全体でのCO ₂ 排出量を「1回使用当たり」の値と比較し、温室効果ガス削減効果を試算しています。 出典：平成14年度リユースカップの実施利用に関する検討調査報告書 平成15年 環境省 p.20
ペットボトルの分別排出 (500mL 容器)	1本	0.071kg-CO ₂	ペットボトルを現状の廃棄フロー(別製品へのリサイクル、焼却、埋立)によって廃棄した場合と、全てペットボトルへとリサイクルした場合とで、それぞれのケースでのライフサイクル全体におけるCO ₂ 排出量を比較し、温室効果ガス削減効果を試算しています。 出典：早稲田大学永田勝也研究室によるLCA評価結果 平成21年 早稲田大学永田勝也研究室

1回あたりの効果が小さくても、
たくさん行われることで大きな効果になります

あだちエコネット事業(p.4)で回収したペットボトルは、
約3,201万本(平成18～21年)。
上記の例では、ペットボトルを1本分別排出することによる
CO₂排出量削減効果は、0.071kg/本です。合計で、
3,201万本×0.071kg/本 = 約2,272,710kgの
CO₂排出量が削減されたこととなります。



おわりに

地域において循環型社会の構築に向けた取組を行うためには、事業者、NPO/NGO、行政(自治体)、地域協議会といった各主体が連携しながら、一人ひとりが循環型社会づくりに積極的に参加していただくことが欠かせません。

しかしながら、平成22年度に環境省が実施した国民に対するアンケート調査では、環境に対する意識は高い一方で、ライフスタイルの見直しなど具体的な行動についてはまだ十分には行われていないという結果になっています。

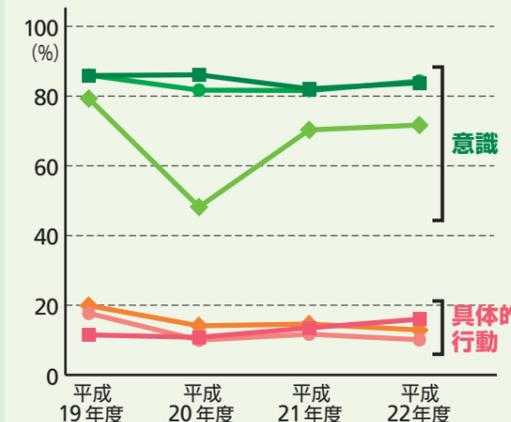
3Rエコポイントシステムは、楽しみながら3R行動を行うことによって、天然資源の消費を抑制し、廃棄物の発生等の環境負荷を削減できるだけでなく、地域住民の連携による地域活性化にも貢献するものであり、まさに、3Rとともにある地域づくりを促進するものです。

環境省は有識者検討会を開催し、3Rエコポイントシステム促進のためのガイドラインを作成しました。本ガイドラインが、循環型社会づくりに参加する各主体間における協働・連携の一助としていただければ幸いです。

▼3Rエコポイントシステム促進のためのガイドライン

<http://www.env.go.jp/recycle/circul/3r-ep/>

循環型社会形成に向けた意識・行動調査



- ごみ問題に(非常に・ある程度)関心がある
- ごみを少なくする配慮やリサイクルを(いつも・多少)心がけている
- ◆ 環境にやさしい製品の購入を(いつも・できるだけ・たまに)心がけている
- 簡易包装に取り組んでいたり、使い捨て食器類(割り箸等)を使用していない店を選ぶ
- ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う
- ◆ 再生原料で作られたリサイクル製品を積極的に購入している

出典：環境省「循環型社会に関するアンケート調査」

環境省
大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
循環型社会推進室



このように“3Rエコポイントシステム”を
地域に取り入れることで、ゴミやCO₂排出量が減ったり、
地域の人々がポイントを通じてつながったり、
地域が元気になったり。
みんながうれしいことが満載なんだ！
ハッピーが詰まった“3Rエコポイントシステム”の導入を
あなたの地域にも取り入れてみませんか？

リデュース・リユースを重視した3R強化・促進プログラム「見える化」推進

背景

第2次循環計画(H20.3閣議決定)の取組指標目標(H27年度)

- ・廃棄物の減量化等の意識を持つ・・・国民の約90%
- ・廃棄物の減量化等について行動する・・・国民約50%

<H21年度世論調査>

意識→92.4%

行動→マイバッグ持参、詰め替え製品の購入等を除き、多くは未だ50%未満

意識と行動の乖離

3R環境負荷削減の見える化の推進による3R行動の更なる促進

製造業者や小売業者等と連携した、消費者等の意識・実態調査による重点化の明確化

事業者・消費者に向けて 個別の3R行動の見える化

◎個別の3R効果の見える化手法の開発

個別の製品、品目、行動の評価結果を集結し、3R行動プロセス全体効果を見える化する指標、計算手法を開発

◎見える化ツールの開発・普及

個別の3R行動効果の測定ツールの提供

見える化手法そのものや効果の高い取組を広く情報発信して、普及啓発

見える化によるわかりやすく、正確な情報に基づく3R行動の促進